

Title	思春期保健相談師・支援者の実践開発プログラム構築：思春期から妊娠・産褥期までの一貫した母性・父性育成ケアプログラムの構築要素
Author	小山田 浩子
Citation	大阪市立大学看護学雑誌, 7 巻, p.83-85.
Issue Date	2011-03
ISSN	1349-953X
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学院看護学研究科
Description	平成 22 年度看護学研究科大阪市立大学重点研究 / 平成 22 年度看護学研究科大阪市立大学重点研究報告書「看護実践へのトランスレーション・リサーチ拠点」
DOI	10.24544/ocu.20180403-084

Placed on: Osaka City University

思春期保健相談士・支援者の実践開発プログラム構築

—思春期から妊娠・産褥期までの一貫した母性・父性育成ケアプログラムの構築要素—

小山田 浩子

Hiroko Oyamada

平成21年度 活動結果から得た示唆

平成21年度は思春期保健相談士への実践構築に向けて「よりよいセクシュアリティ支援・性教育を思春期対象に実践する支援者研修プログラム構築」として「思春期保健相談士への実践構築に向けての現況調査」を実施し、支援者のニーズを確認した。

平成22年度 主な活動と活動から得た示唆

平成22年度は支援の現況の結果を基に優先的に解決すべき課題を抽出し、新しい研修企画に反映させ、思春期対象を指導する思春期保健相談士等の教育研修プログラム開発を行うことを中心に活動している。

今夏、ハートブレイク主催で「特別支援学校と地域を結ぶセクシュアリティ支援セミナー」を富山・名古屋・静岡・岡山に加え、大阪の5地区で実施し、大阪地区は大阪市立大学看護学研究科の学舎を会場として協賛した。このセミナーは知的しょうがい者支援のうち、「当事者本人たちの幸せ」をキーワードに活動を続けてきたハートブレイク講師による知的しょうがい者セクシュアリティ支援の講座で男女ともに20代から50代の「特別支援学校の教諭・養護教諭」「小・中学校の教諭・養護教諭」「看護師」「保健師」「当事者のご家族」「福祉施設・作業所等の支援者」「助産師」「出前講座等の性教育実践者」「公務員」「NPO関係者」「生活指導員」など、セクシュアリティ支援を目指す参加であった。この大阪地区開催時のアンケート調査では、知的しょうがい者のセクシュアリティ支援者の立場にある方々でも、母性・父性育成に対する関心は、思春期支援者の意見の中に表述される程には高揚していないことが判明した。受講者の研修目的は困った性行動への対処が主であり、かつての思春期への性教育導入時の学校教育の状況と類似している。その後、

これらのセミナー受講者限定のコーディネーター養成セミナーをハートブレイク研修施設において8名限定の少数宿泊研修を4回実施した。

前述の全国5か所（岡山・大阪・静岡・名古屋・富山）で実施した「特別支援学校と地域を結ぶセクシュアリティ支援セミナー」、尼崎市の依頼により実施した「思春期教育者実践5回コース」、ハートブレイク主催の宿泊セミナーなどでフィンランドメソッドを積極的に取り入れてきた。フィンランドメソッドは「発想力」「表現力」「論理力」「批判的思考力」「グローバルコミュニケーション力」が5つのキーワードとなっているが、これらは人が生きていくために大切なコミュニケーション力を育む大切な要因である。これは性教育そのものであるのだが、「伝える」が目的ではなく「相手に伝わる」を重要視すべき思春期教育者にとって欠かす事ができないキーワードとも言える。これらを体感することにより、教育者のメッセージ性が向上すると考え、可能な限り、今年度のセミナーでは具体的な方法として取り入れてきた。

取り入れた具体的な方法のひとつに、「カルタの手法」がある。これは、ひとつの言葉から、一定時間内にできるだけ多く連想した言葉をカードに書き並べて行き、その並べたカードをメンバー全員で見ながら、ストーリー作成を規定時間内に行い、完結させて口述表現する方法である。発表時には同じ言葉から出発したにもかかわらず、小集団数の数だけ、異なるストーリーが生まれ、それを知ることでより発想展開の多様さを学習することができる。このカルタ手法は本来「発想力」を高めるものであるが、性教育実践者の性教育そのものの発想転換を狙っている。

以前より「何から始めるべきか」など、思春期教育や性教育の入り口で戸惑い相談を受けるケースが散見されたため、その人らしい切り口を見つけ出すきっかけ作りとして「カルタ」による連想法を取り入れているものである。その後「表現力」を高めるために実施したキーワ

ードからのストーリー作成なども体感することにより、それまで難しく考えてきた思春期にたいするアプローチの入り口が「身近なところにあり」・「いくつもある」ことに参加者が自ら気づいていくのである。従来より考えられてきた、ノウハウ論・手法論・ハウツウなどの性教育論より、遥かに受け手である思春期の若者に対して伝わりやすいもの、つまり「その場にあった伝え方」まで生み出す可能性が存在することになってきている。

思春期から妊娠・産褥期までの一貫した母性・父性育成ケアを実施するに当たっては、短期間で育成されることは難しく学校教育と保健医療機関で専門とする指導技術や保健指導をうまく思春期対象へ届けなければ成功しない。さらにその場限りの大人や専門職の対処方法で結果を出すのみでは不十分であり、思春期対象本人の判断力や行動力の成長が伴わないと、同じ行動を繰り返し、人生を自力で前進できない。

思春期対象には知的しょうがい者も含まれ、健常者のみを対象と限定する必要もない。しかし、その指導にあたる者には、より高度なケアや保健指導を必要とし、支援者の発想も多方面に渡って、豊かでなければ相手にとって有益な対応はできない。

思春期対象の支援は性教育に留まらず、妊娠やSTD、出産に至れば、虐待などの問題を回避した子育て、そしてその子どもの人生の基礎を定めていくという一連のプロセスを支援することである。思春期の対象の支援は常時、学校教育現場のみで対処できるものではない。保健・医療施設の医療・看護職も、日々、学校教育を稼働させている教師等も、医療機関と密接に関わることを意識していないかもしれないが、新型インフルエンザの大流行時の対応を想起すれば、理解しやすい。つまり、学校・地域・保健医療施設が密接に情報交換し、速やかに対処しなければ、生命に関する状況に直結することになるという関係性が明らかになる。

フィンランドメソッドによる豊かな発想や発想の転換を小学校（初等）教育に取り入れることは、文部科学省や教育研究者も注目し、授業科目習得の効果を評価しているが、性教育等には取り入れていない。しかし、その点を指摘することは最適領域に任せることとし、まずは、教える教員や支援者自身にその実施（実践）能力が備わっていないければ、始動できないことを指摘したい。

ハートブレイク研修施設内で実施する研修ではセクシュアリティ教育実践者に対するセミナーを幾度も実施しているが、2010年度からは「フィンランドメソッド」の考え方や手法をごく一部ではあるが、取り入れた思春期教育者養成への取り組みを始め、参加者からは好評価を

得ており、さらに展開を図る計画を予定している。

よって今年の研修や講座を通して得た、エッセンスをブックレットに載せ、今後の研修時に積極的に習得を支援し、その後の活動を長期間に渡り、継続実施できる研修が必要であることが判明した。セクシュアリティ支援研修に使用するブックレット出版を思春期保健相談部門ハートブレイクと進めており、この製本化が完了した3月25日（金）には、1日間で短期間ではあるが、本学看護学研究科多目的ホールに於いて研修開催予定である。この研修では、新しい知見やフィンランドメソッドを取り入れた方法を一部組み込んだ、思春期保健相談士・支援者のセクシュアリティ支援セミナーを開催する予定である。

1995年の阪神淡路大震災後に思春期相談部門を立ち上げたハートブレイクの活動は、年間100件を超える性教育講演や思春期対象の支援者研修を求められる状況になっている。この間、携帯電話無の生活が想像できないような現代の子どもから青年・成人期の人たちにとって、機器やネットワークの発展とともに想像力や生きる逞しさ、人とのコミュニケーションが減退し、ゲームやモバイル内の登場人物とのやりとりより、人相手のコミュニケーションが苦手になってしまった現象が存在している時代になったのではないだろうか。

愛や恋、思いやりは、やはりコミュニケーションが発発点であり、自分の力で人生を歩んで行く為に必要な判断力・決断力・行動力は自らの経験で構築され、人に作ってもらったフレーズやメール・添付ではなしえないことは、携帯電話がなかった時代と何ら変わりが無い。それらをコミュニケーションを介して伝え、対象者が自ら判断し、強い自分の決断・行動力を養成し、いずれおとなになって、次世代を育成していくことができる様な支援が必要である。

地域においては、良好な健康状態であれば医療機関にかかわることは少ないが、妊娠やSTD罹患を保健行動で回避することが、学校教育では医療・看護職の専門技術を活用することで十分実施することができる状況に現在はある。今後、支援が必要な対象に、より積極的に様々なアプローチが施策として実行できるためにも、多くの支援者の能力向上に寄与していける研修プログラムを提供していきたい。

平成23年度への展望

次年度は、出版したブックレットを活用し、新しい知見やフィンランドメソッドを取り入れた方法を一部組み

込んだ研修を計画し、多くの支援者への継続的な研修プログラムを提供したい。また、現在の知見に付加して「論理力」「批判的思考力」「グローバルコミュニケーション力」の展開を模索したく研究・実践を展開したいと考えている。またその結果を踏まえ、より効果的なブックレットを更新したい。

なお、思春期保健相談部門ハートブレイクURLは、下記
<http://www.eonet.ne.jp/~heart-b/>